

# ハワイ大学マノア校を事例とした 学生支援に対する一考察

— Student Recreation Services の活動に着目して —

灘 英世

人間健康学部 准教授

## 抄録

この研究では、日本の大学が健康教育に焦点をあてた学生サービスシステム（SRS）を導入する可能性について検討する。そのために、ハワイ大学のキャンパスで提供されている様々なプログラム内容の概略を整理し、以下の5つの側面から検討する。すなわち、ウォーリアレクリエーションセンターで提供されているフィットネスプログラム、キャンパス内のスポーツ施設で行われている非公式のレクリエーション、学内スポーツ、レクリエーションスポーツ、そしてアウトドア教育である。そのうえで、学生サービスシステムで現場観察を行ったフィールドワークに基づいて、日米の文化差に関する問題についても検討する。

キーワード：学生支援、キャンパス・レクリエーション、アウトドア教育

## 1. はじめに

大学における健康教育は、生涯にわたり健やかに生きる基盤づくりをする上で重要なものである。近年、様々な分野におけるIT技術の高度化、情報化等の著しい進展が、身体活動の低下を引き起こしており、身体の不活動は様々な健康問題を引き起こす可能性を持っている。真柄（1990）は、「大学生の健康に関する意識と行動について」大学生は健康については深い関心を寄せながらも運動嫌い、運動不足の傾向が指摘され、健康に関する意識の向上と行動の改善が必要としている。最終学府での健康教育は社会に出るため、また豊かな人生を送るうえでとても重要なことである。しかし、笹川スポーツ財団（2016）『スポーツライフに関する調査』の結果では、過去2回の調査に比べて、身体活動に従事する割合が低下しており、運動・スポーツ実施率は減少局面を迎えたといえる。厚生労働省：平成27年、「国民健康・栄養調査結果概要」では、運動習慣のある者の割合が70歳以上：56.1%が最も高く、20～29歳：17.1%が最も低い結果である。これらのことは、

平成3年、文部省は大学設置基準を改定し、それに伴って各大学でカリキュラムの自由化を中心に改革が進められた結果、体育が必修科目から外れたことで、一般学生のスポーツ参加の機会に関しては低迷したままで、正課外活動としてのサークル活動等に力を入れている大学もあるものの、大学生においては21%の者しか部活動やサークルに参加していないという報告もある（2001）。大学として組織的に年間を通じて、一般学生が卒業するまでスポーツと身体活動が出来る環境を提供している大学は、あまりないのが現状である。

文科省（2017）では、大学が持つスポーツ資源（学生、指導者、研究者、施設等）が、社会に貢献する人材の育成、地域貢献、経済活性化の点から大きな潜在能力を有していると認識しており、スポーツ庁では2019年に一般社団法人「大学スポーツ協会」（Japan Association for University Athletics and Sport、通称：UNIVAS）の設立に向けての準備を進めており、そこで大学スポーツ振興に向けた方策等について議論が活発に行われているが、それらの議

論はまだ競技スポーツ・学生アスリートに関するものであり、今大学が行うべきは、一般学生及び教職員を含むすべての大学関係者を視野に入れた支援を行うべきである。

このような現状に対して、米国の大学界では、受験生が大学を選ぶ際に、研究・教育はもちろんのこと、学生が個々にどのような「支援」が受けられるかという実質的な「学生支援」「学習支援」「奨学支援」の部分が、大学を選ぶ際の重要な評価基準となってきた。そのような傾向の下で、各大学が力を入れているのは、『キャンパス・レクリエーション (Campus Recreation)』である。健康づくりのための時間、リフレッシュのための時間、仲間と過ごす時間も、キャンパスで過ごせるようにするために、学内でのレクリエーションサービスを充実させ、そのための施設、予算、支援のための人材を確保している。また、キャンパス・レクリエーションは、単なる娯楽の提供ではなく、正課外であっても重要な教育の場であるということが全国的に認知されている<sup>a)</sup>。そこで、ハワイ大学マノア校で「学生支援」の一環として開発・提供されている『Student Recreation Services, 以下 SRS と略す』で行われているプログラムは以下のとおりである学内スポーツ大会「Intramural Sports」、キャンパス内スポーツ施設を活用して自由に楽しむ「Informal Recreation」、と「Fitness Programs」& 余暇プログラム「Leisure Programs」、レクリエーションスポーツ委員会が運営するレクリエーションスポーツ「Rec (Recreational) Sports」、ハワイ特有の環境の中でのアウトドア活動が体験できる、アウトドア教育「Outdoor Education」を概観し、日本における「学生支援」を構築していくにあたって検討すべき内容について若干の考察を行った。

なお、ハワイ大学はアメリカ合衆国ハワイ州の州立大学システムであり、3つのユニバーシティーおよび7つのコミュニティカレッジなどハワイ州全土の6つの島に分布する様々な研究施設で構成されている。本稿で扱うのはメインキャンパスであるマノア校 (オアフ島)：ハワイ大学は1907年に「ハワイ準州のカレッジ・オブアグリカルチャー・アンド・メカニク・アーツ」(College of Agriculture and Mechanic Arts)として創立され、1911年に正式名

称をカレッジ・オブ・ハワイ (College of Hawaii) に変更、1912年、マノアに移転、1920年7月にハワイ大学 (University of Hawaii:UH) と認可され、現在のハワイ大学マノア校に改名されたのは1972年である。学生総数約19,500人 (学部、大学院含む)、14 Colleges & Schools からなる総合大学である。

筆者は2015年度に関西大学在外研究員として、ハワイ大学マノア校の「Student Recreation Services」の Director (当時)：Lloyd I. Hisaka, (EdD) の下で、その概要を調査することができた。本稿は、その報告である。

## II. キャンパス・レクリエーション【Campus recreation】

### 1. ハワイ大学 (UH) の『Student Recreation Services』

スポーツと身体活動の提供について、米国の大学では体育会『Athletic Department』とは別に、一般学生及び教職員向けに、米国レクリエーション・スポーツ・プログラム『Recreation sports programs 以下 RSP と略す』と称して、学生支援の一つの機能として、提供されているサービスがある。学生が RSP に参加することは、学習環境、学生間のコミュニティづくり、教育効果、及び学生の健康に重要な役割を担っている (Kovac, D, C 1997)。このことについては、米国の学生支援業務に関する専門職団体である高等教育基準推進協議会『Council for the Advancement of Standards in Higher Education：以下 CAS と略す』では RSP の目的を「高等教育に於いてなくてはならないものであり、学生の身体的、心理的、感情的な発育を促す教育課程を補完するものである。RSP へ学生が参加することは肯定的なセルフイメージ、長所の認識、忍耐力及び自己統制の向上、社交性、成熟度が向上する傾向にあり、これらは RSP の体験を通じて生まれる。レクリエーション・スポーツはダイナミックで、組織化された存在になっており品質が保持された併用カリキュラムの機会を多く学生に提供している。」(CAC 2008) のように大学における課外レクリエーション・スポーツサービスはウエルビーイングを推進し、健全なライフスタイル作りにも貢献している。

このような考え方の中で、ハワイ大学では学生生

活センター（Student Life & Development）所管の、一般学生向けの学内スポーツ大会を運営する学内スポーツ部門（Intramural Sports）とレクリエーション・スポーツ（Rec Sports）及び野外教育（Outdoor Education）を運営するレジャーセンター（Activity Council）を配置し主要な学生支援として行われていた。そして2005年から学内スポーツ部門とレジャーセンターが統一され、一般学生及び教職員を対象に現在の学生レクリエーション部門としてSRSが立ち上げられた。

## 2. SRS の概要

SRSのミッションは、「斬新的なレクリエーション活動やサービスを通じて、学生のための体験学習を提供し、学生生活を向上させながら、活動を通してチームワーク、スポーツマンシップ、リーダーシップ、健康的なバランスのとれたライフスタイルを促進し、学生生活を豊かに向上させることができる。」もう一つの特徴として、それらの活動を提供することにあたって、SRSは学生の雇用を可能にしており、学生の支援がなければ、利用者へのサービスやプログラムを提供することはできない。SRSのすべての業務を担っているスタッフは、Directorの「Lloyd I. Hisaka」以下、1名のAssociate Director（Fitness Center, Informal Recreation 担当）と2名のAssistant

Director（Intramural Sports, Outdoor Education 担当）、Operation Coordinator（Programs 担当）、Office Assistant、とAthletic Trainer各1名の合計7名の専任スタッフである。（図1）

ちなみに、LloydとAssociate Director、の2名のみが大学に雇用されているアカデミックスタッフで、2名のAssistant DirectorはATP（Administrative professional technical Specialist）というスポーツ振興専門職としてハワイ州の職員という立場になる。

\* 〈日本においても「UNIVAS」設置準備委員会でも大学スポーツ振興にかかわる「Sports Administrative」配置に係るガイドライン制定について議論されている〉

SRSは7名の専任スタッフと前述した多数（約150名）の学生スタッフを（サービスアソシエイト、ライフガード、レンタル担当、フィットネスインストラクター、オーシャン教育インストラクター）雇用しており、その年間の予算規模は、約\$75,000（\$1：110円として8,250,000円）、これに加えて消耗品、機材の補修、学外の専門家への賃金が約\$32,000（3,520,000円）で、合計：\$107,000（11,770,000円）となる。これに対して、各種プログラムへの参加費等の収入は約\$75,000（8,250,000円）で、不足分は学費に含む学生生活費から拠出されている。（2012-2013年度予算）

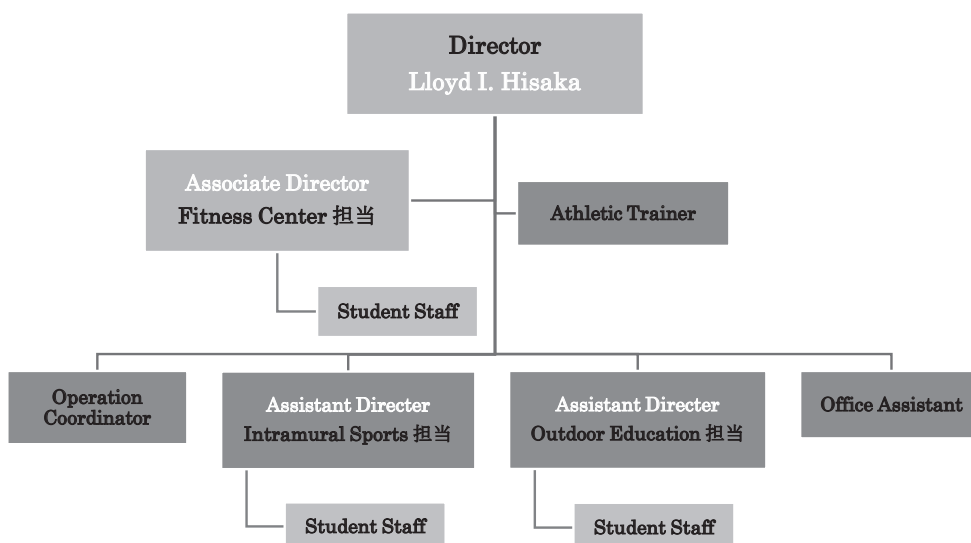


図1 SRS スタッフ

### 3. レクリエーションセンター (Warrior Recreation Center)

SRS の中核となる施設が『Warrior Recreation Center : 以下レクセンターと略す』である。

マノア校は Campus Size 約 130 万 m<sup>2</sup>、(千里山キャンパス : 約 35 万 m<sup>2</sup>) 広大な敷地に建物とスポーツ施設が効率的に配置されている。Dole Street という道路を挟んでローワーキャンパス (Lower Camus) と呼ばれる敷地に各種体育施設があり時間帯によって正課の体育授業、体育会及びキャンパス・レクリエーションが使い分けている。

道路を挟んで山側の本キャンパスには各学部棟、Hawaii Hall (過去、学位授与式や卒業式も行われていた)をはじめ各種ホール、図書館が2箇所: ハミルトン図書館 (Hamilton Library) は全米でも 50 位以内にランクされる (所蔵、約 300 万冊)、各研究センター、劇場もあり、そのキャンパスの中心部にキャンパスセンター (Campus Center : 以下センターと略す) がある。そこでは学生証 (ID) の発行やバスの定期券やコンサートチケットの販売も行われている。また、センター内にはメイン食堂とカフェテラス、ハワイ大学信用組合 (生協)、「ASUH」と呼ばれる学生自治会、ATM も併設されており毎日、多くの学生がほとんど毎日センターを利用している。レクセンターはこのセンターに隣接しているという立地条件から、キャンパス内の教育・研究機関との行き来もしやすく、その利便性によるところが大きな要因となって、平日は平均して 2,000 名以上の学生及び教職員が利用している。(2,000 名の利用者数はメインランドと比べて少なく、メインランドでは万

単位で利用している。ハワイは気候が良いのでアウトドアでトレーニングを行うことが理由である) レクセンター建設にあたっては学生に 3 回調査を行い全学生の 10% が賛成したため、学生の学生活動費も充てられ、筆者が渡米した前年の 4 月にオープンされた。

レクセンターを概観すると、1 階の正面玄関を入



トラック&フィールド



テニスコート



Warrior Recreation Center



ソフトボール球場



サンドバレーボールコート

ってすぐに、自動式ゲートの受付を通ると、100人以上以上のロッカー、個室シャワーとランドリーサービスもあり、1年間の貸ロッカーと貸タオル、ランドリーサービスをパッケージでレンタルして\$150/年間というサービスもある。その奥にはトレーニングマシンが並べられており、そこでは利用者に対してフットネスチャレンジ!!というイベントが開催されており、学生スタッフが作成したプログラムの課題に参加して課題がクリアした学生にはTシャツ等が与えられる企画もある。併設してスカイウォーカーと呼ばれるベルトコンベアー式クライミングウォールも備え付けられている。

2階建ての吹き抜けのアリーナでは1階がバスケットボールのフルコートで2面、バレーボールなら3面同時に使用可能でバスケットリングもバレーボールネットも天井に収納可能なオーバーヘッドシステムによりスイッチ一つで設置収納ができる。このフロアでは曜日・時間によって活動種目が決められているが、自由に活動ができる。アリーナの1階、別棟はフィットネススタジオになっており、ここでは主にインストラクター（Student Instructor）によるフィットネスクラスが行われており、そのバリエーションは驚くほど多彩で、ズンバやヒップホップ、タヒチアンダンスといったダンス系から、ブードキャンプやボクササイズ等のエアロビック系のエクササイズまで16種類のクラスが選べる。

2階は全面ガラス張りでその壁面にはトレッドミル、トレッドクライマー、スピンバイク等、総数100基以上並んでいる。外周は1/13 mile×3 laneのジョギングトラックになっており、常に最新のスポーツ



トレーニングマシン



ベルトコンベアー式クライミングウォール

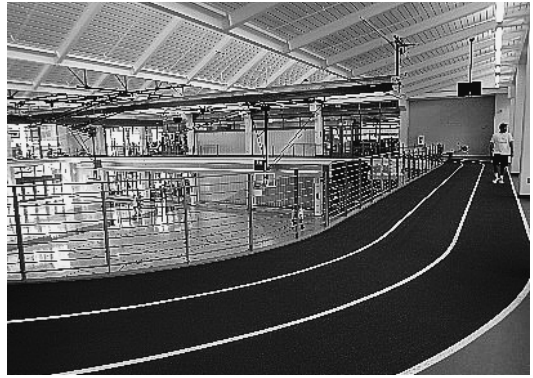
環境（ソフト・ハード）を整えている。また、「余暇プログラム」（Leisure Programs）としてフラのクラスでは伝統的な8つの基本的なステップを学び、伝統と現代フラの変動についても学ぶ。（学生は\$20、教職員は\$50）ウクレレのクラスでは、持ち方、チューニング、基本的なコードを学び、弾き方として3-4曲を習えるクラスもある。（テキスト購入が必要）

### 3-1. レクセンターの運営

レクセンターの開館時間は、授業期間中の平日はAM5:30～PM10:30、土日祝日はAM9:00～PM5:30となっており、基本的にハワイ大学システムのメンバーであれば誰でも使用することができる。ただし、それぞれの所属によって（マノア校、コミュニティーカレッジ、及びゲスト）費用が違ってくる。マノア校の学生はサマーセッションの期間以外は無料で使用することができる。（サマーセッション期間のみ\$20）、他のキャンパス、コミュニティーカレッジに通う学生は1 Semester: \$105、月: \$25で教職員だと年間: \$240、6ヵ月: \$135、月:



アリーナ1Fフロア



ランニングレーン 1/13 milex3 lane



ボクササイズのクラス



スピンバイク



Lloydの早朝からのトレーニング



トレッドクライマー

\$25、というように、細かく料金設定(表1)がなされている。

スタッフは、専任職員(Associate Director) Carl Furutani, (MEd) が配置されている。学生スタッフ、約100名が受付、器具の管理、インストラクター、清掃などの業務を担っている。組織形態は、専任職員>学生マネージャー>学生スタッフという階層になっており、常時館内には10名前後が常駐できるよ

うに、通常1日4交代制で適切なシフトを組んで勤務している。それぞれのシフトには学生マネージャー約6名(院生)がおり、毎日勤務レポートの提出があり、勤務開始時にはミーティングを実施し事故や問題点の詳細が報告される。そこには各学生スタッフの勤務評定まで記入されている。ちなみにアルバイトフィーは1h: \$10~資格によって違ってくる。それと、レクセンターの使用対象者は、UHの

表1 WRCメンバーシップ計画

Membership Plans		
Category	Who is in the Category	Membership Fee
1	Returning UH Manoa Fee Paying Students	Summer Session \$20.00
2	"Current Non-Fee Paying Students & Program Participants	Fall/Spring Sem \$105.00
	UH System Students*	Sum Session \$25.00
	UH Manoa Graduate Students	Monthly \$25.00
	UH Outreach College Students	Monthly \$25.00
3	NICE/HELP Program	Weekly \$15.00
	Na Kapuna Senior Citizen Visitor Program Participants	Daily \$5.00
	East-West Center Stu/Participants*	
4	UH Manoa Faculty/Staff	Annual \$240.00
	UH System Faculty/Staff*	6-Month \$135.00
	RCUH	Monthly \$25.00
	East-West Center Faculty/Staff*	Weekly \$15.00
	UH Foundation*	Daily \$5.00
4	UH Emeriti Faculty	
	Other UH Manoa Affiliate	Annual \$300.00
	UHM Spring 2008-Present Alumni*	6-Month \$165.00 Monthly \$30.00

学生、教職員、そのゲスト及び卒業生に限られており、地域一般の人の使用はできない。(一般フィットネスクラブの営業妨害になるためとの Carl の回答である)

#### 4. 学内スポーツ (Intramural Sports) イントラミュラル・スポーツ

イントラミュラル・スポーツは「学生生活を向上させながら、チームワーク、スポーツマンシップ、リーダーシップ及び健康的なバランスのとれたライフスタイルを促進する革新的なレクリエーション活動やサービスを通じて、学生のための体験学習をしていきます。」

イントラミュラル (Intramural) とは、ラテン語の内部を意味する *intra* と壁 (wall) を意味する *muralis* の合成語であり、「壁の内部」=「学内」を意味し、対外試合を目的として組織化されている運動競技部 (Athletic Department) と区別するようこうした名称がつけられた (小倉乙春, 2013)。学内スポーツ大会は主にチーム対抗のリーグ戦形式で実施されており、1 セメスターに 4 種目程が開催される。種目は、春季は男女混合バスケットボール、屋外サッカー、バレーボール：男性&女性、ソフトボール。秋季は室内サッカー、フラッグフットボール、

男女混合バレーボール、バスケットボールが開催 (2015) された。



イントラミュラル・スポーツ (室内サッカー)



イントラミュラル・スポーツ (男女混合バレーボール)

特徴としては参加の公平性という観点から、チームごとの参加試合数を均等化し、チームの競技レベル（上級、中級、親睦）に応じてリーグを設定し、ゲームの接戦化と勝利機会の拡大を考慮しており、ルールについても試合時間、身体的に過度の負担にならないように工夫がされている。また、開催種目で示したように季節ごとで種目を変えたり、男女別と男女混合の両方にエントリーしたりすることもできるので、友だち同士気軽にチームを編成して参加できる。公平性の観点からもう1点、体育会に所属している学生の参加は、その専門種目に限って参加規制を設けて制限されている。

もう一つの特徴は、エントリー方法にあり、SRSのオフィスに行って直接エントリーするか、WEBでの参加申請を行う。その申請方法はチームを作ってチームとし登録するか、個人で「フリーエージェント（Free Agent）」として登録しておいて、その人を必要とするチームがあれば招待を受けて参加することができる。このようなエントリー方法は学生間の「新しい良好な関係の維持、多様性の理解と親睦それと友情が生涯、刷り込まれる」ことがイントラミュラル・スポーツの目標である。スタッフは、専任職員（Assistant Director）Gari-Vic Baxa, (MEd) が配置され学生スタッフ（約35～40名）を統括している。学生スタッフは主にゲームの準備、受付、競技進行、審判員、記録等の業務にあたっている。学生スタッフの組織体は前述で述べたとおりである。

イントラミュラル・スポーツでは、ほとんどが学生スタッフのみでイベントが運営されており、その日のイベント終了直後に学生マネージャーと専任職員宛に結果、問題、事故等の報告書をEメールで送付する。傷害などの事故の場合は、アスレチック・トレーナー（Athletic Trainer：以下ATと表記）が常駐しているので、専任スタッフと連絡を取りながら、ATが応急手当から救急搬送まで現場で判断して対応している。

イベントが行われるフィールドと時間帯は主にローワーキャンパスの第1.2体育室、クルム・ジム（Klum Gym）、ハワイ大学のホームアリーナでハワイでも最大級の1万人収容できるドーム型のスタン・シェリフ・センター（Stan Sheriff Center）1年に一回、NBAのゲームも行われる、そして野外種目はス



スタン・シェリフ・センター



レス・ムラカミ・スタジアム

タンドやナイター設備のある本格的なレス・ムラカミ・スタジアム（Les Murakami Baseball Stadium）とソフトボール球場、テニスコートなどである。キャンパス内の体育施設で行われるため、正課の体育授業及び体育会活動が配置されていない夕方以降に競技が開始される。

## 5. アウトドア教育（Outdoor Education）

アウトドア教育は、「ハワイでの野外レクリエーションは、日常生活の重要な部分である。ハワイの自然環境を最大限に利用したプログラムを体験することを、安全で楽しい方法で学生、教職員とそのゲストにコミットしている。プログラムや活動のほとんどは、初心者のために連動している。」

アウトドア教育のクラスは、表2の通りであり学生はSRSのオフィスで申込み、定員が決められているので、空いていれば事前に参加費を収めて参加することになる。各プログラムの実施場所は、それぞ



れの活動によってオアフ島でも有数のフィールドで行われており、現地までは基本的に学生スタッフが2名一組でSRS所有の車（ミニバン）で送迎及び講習が行われる。実施場所は、サーフィンは「ダイヤモンドヘッドビーチ」（ダイヤモンドヘッドを見上げてテークオフ）、SUPはSand Island、ボディボードは「ワイマナロビーチ」（2014年度全米No1ビーチ）、シュノーケリングは「シャークス・ケイブ」（ノースショアの穴場）、ハイキングは「ハワイと言えばマリンスポーツ」のイメージがあるが、海を見ながら歩ける気持ちの良いコースで、冬にはホエールウォッチングも楽しめる「マカプウ岬」、全米でも最も美しいといわれるラニカイビーチを眼下に望む「ラニカイ・リッジ・トレイル」、マノア地区の山奥には巨木や花などを観察でき滝もある「マノア・フォールズ・トレイル」など風光明媚な所ばかりである。

スタッフは、専任職員（Assistant Director）Andrew Johnson, (BS) が配置され学生スタッフは約12名が業務にあたっている。学生スタッフの主な業務は、各種プログラムの準備はもちろん、受付から移動の運転、活動中の安全についての講習、基礎的な技術講習等すべてを行う。

\*セーリングは高度なセーリング理論とボートの取り扱いテクニックが必要なため、専任職員のAndrew Johnson 自らが担当（ハワイ大学セーリング部ヘッドコーチ）

スキューバーも講習修了後、NASEのオープンウォーターダイバー資格が取得できるので、外部業者（Ocean Adventures）に委託。

プログラムに参加するのにあたって、活動のほとんどが自然環境の中で行われることになるため、緊急の場合に備えて病歴情報等（Medical History Information）の書類の提出が義務づけられている。内容は、《・緊急連絡先、・医療保険の加入の有無、・既往症について（心臓、循環の問題、糖尿病、薬の使用状況、てんかんの既往、アレルギー症状等）、・活動に参加するにあたって能力を制限する可能性のある物理的な障害について、・泳力について》基本的に海プログラム（Ocean Programs）は泳げることが参加条件になっている。

学生スタッフのオーシャン教育インストラクター担当者は「Ocean Education instructional Manual」

に従って業務を行っている。

○オーシャン教育インストラクターマニュアル  
概要：（General Description）

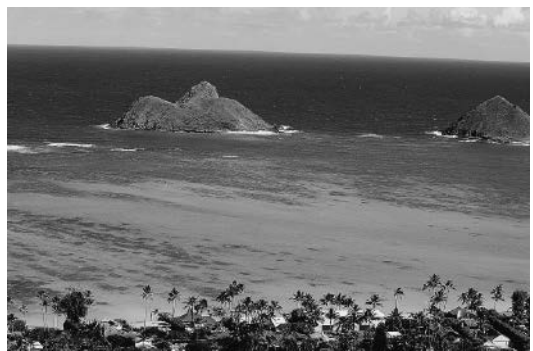
海洋スポーツ関連の様々な高度な知識を持っている、意欲的な学生を対象にします。これらは、シュノーケリング、カヤック、ボディボード、サーフィン、セーリングを含む、安全上のスキルを提供するために、プログラム参加者に対して良好なコミュニケーションスキルを持っていることが必要です。

職務：（Job Duties）

1. 海洋ベースのレクリエーションを教えて、そして安全上の明確な指示を与えます。
2. 参加者（学生）の安全と福祉を保証します。
3. クラスの進行状況の毎日のログを維持します。
4. 使用する機器が安全である保証をするために、毎日、機器を評価します。
5. アシスタントディレクターに質問や問題を



ダイヤモンドヘッドビーチ



ラニカイビーチ



マノア地区



マノア・フォールズ



ボディボード

表2 Outdoor Classes

Programs	Entry fee	
	UHM Student	Faculty Staff & Guest
Beginning Surfing (One day)	\$10	\$27
Surfing (Two Day)	\$20	\$52
SUP(Stand-up Paddling)	\$10	\$32
Body Boarding	\$10	\$27
Kayaking Excursions	\$10	\$32
Introduction to Sailing (One Day)	\$22	\$27
Beginner Sailing	\$48	\$132 & \$152
SCUBA (Open Water Certification)	\$210	\$225
Snorkeling	\$22	\$27
Hiking	\$5	\$12

通信します。

6. 海洋教育プログラムを支援します。
7. 緊急事態のための手順書の指示に従って、

適切にすべての緊急事態を処理します。

8. すべての会議および、トレーニングセッションに参加します。

9. 割り当てられた職務を遂行する。

最低資格：(Minimum Qualifications)

1. オーシャンレクリエーションの分野での指導経験が少なくとも3ヶ月があり、海洋ベースのレクリエーションクラスの多様性を教え、安全上の明確な指示を与える能力。
2. オーシャン教育のすべての分野での知識。
3. モーターボート取扱いに関する知識。
4. CPR（心肺蘇生）の認定。
5. 応急手当の証明。
6. Red Cross の水上安全法の認定。
7. 有効なハワイの運転免許証。
8. 平日、土日、祝日も勤務出来ること。

上記をもとに定期的に訓練も実施されている。写真 a, b, c は、筆者が実際に参加した、初心者サーフィン（1日コース）クラスの活動の様子である。

担当の学生スタッフ（2名）は、受付から用具の積み込み、現地までの安全運転や現地での安全確認等の説明をもちろん、技術指導に至るまで問題なく行っていた。アウトドア教育部門のもう一つの業務

として、アウトドア・レンタルがあり、各種プログラムの活動後にプライベートでアウトドア道具を格安で借りることができる。詳細：表3参照

アウトドア教育の参加者に対して、ハワイの恵まれた環境の中での体験を通して、学生生活を向上させながら、健康的でバランスのとれたライフスタイルを構築する足掛かりを得ることができ、またハワイの自然や文化に触れることのできる付加価値を提供することがSRSの目的である。



写真 a アウトドア教育受付



レスキュー訓練



写真 b サーフィン講習



レスキュー訓練



写真 c 学生スタッフと筆者



スタッフ準備作業



アウトドア教育 (レンタル用品)

表3 Outdoor Rentals &amp; Sports Equipment

Rent Equipment	Rent Fee			
	Daily	Weekend	Week	Deposit
Backpacks	\$5.00	\$10.00	\$18.00	\$85.00
Bodyboards and Fina	\$5.00	\$7.00	\$10.00	\$80.00
Boarda or Fins onry	\$4.00	\$5.00	\$7.00	\$45.00
Car Rack	\$3.00	\$5.00	\$7.00	\$70.00
Cooler (small)	\$3.00	\$4.00	\$6.00	\$20.00
Cooler (large)	\$4.00	\$5.00	\$7.00	\$45.00
Cooler (jumbo)	\$5.00	\$8.00	\$10.00	\$90.00
Kayak (single)	\$14.00	\$20.00		\$150.00
Kayak (double)	\$20.00	\$25.00		\$150.00
Snorkel and Mask	\$4.00	\$5.00	\$7.00	\$35.00
Mask and Fine	\$5.00	\$6.00	\$8.00	\$65.00
Stand-Up Paddleboards	\$20.00	\$25.00		
Surfboards	\$10.00	\$25.00	\$30.00	\$150.00
Tent (2-Person)	\$7.00	\$11.00	\$20.00	\$90.00
Tent (4-Person)	\$9.00	\$13.00	\$24.00	\$150.00
Tent (6-8 Person)	\$15.00	\$20.00	\$40.00	\$200.00
Canopy Tent	\$20.00	\$30.00		\$100.00

## 6. インフォーマル・レクリエーション (Informal Recreation)

インフォーマル・レクリエーションとは、「革新的なレクリエーション活動やサービスを通じて、学生に幅広い関与の機会を提供している。SRS からの決められたプログラムを提供するものではなく、定められた時間枠の中で規定に従って、自由に運動施設を利用することができるサービスであり、学生たちは自主的な活動のなかでスポーツ経験を通して、チームワーク、スポーツマンシップ、リーダーシップおよび健康でバランスのとれた生活を促進し、学生

生活を向上させることができる。施設使用の申し込みについては、2週間前までに使用者の名簿を添えて、Eメールで予約を行う。スタッフは専任職員 (Assistant Director) Gari-Vic Baxa, (MEd) が配置され、レクセンターと同じスタッフが担当しており各施設に学生スタッフを配置している。利用施設 (種目) と時間帯の詳細は、表4参照

## 7. レクリエーションスポーツ委員会 (Rec Sports)

レクスポーツは、学生たちが週末の金曜の夜に、

授業が終わってからの時間帯を使って、スポーツ活動の機会を提供するために2008年に創設された、学生たちのための学生が運営するレクリエーションスポーツ委員会がユニークなイベントを開催している。スポーツイベントに積極的に参加する意欲を持った学生のために、金曜の夜に毎週開催されており、学生間の親交が形成されるように支援している。イベントは基本的に「One night」つまり、その一夜に完結するプログラムになっており、手軽に、しかも楽しくイベントに参加できるようになっている。また、学生たちの参加意欲を掻き立てているのは、スポンサーをつけて、トーナメントの優勝チームには\$ 100のギフトカードが送られ、イベント毎に旅行券の他、豪華な賞品が用意されている。開催イベントは、表5を参照

レクスポーツはレクリエーションスポーツ委員会の独立性と主体性は極めて高く維持されているが、専任職員の Carl Furutani が管轄しており、運営に当たっては適切な指導やアドバイスを行っている。

## 8. まとめ

ハワイ大学マノア校で提供されているキャンパス・レクリエーション及び、その運営組織である SRS の学生支援をレポートしてきた。SRS の提供している、①学内スポーツ (Intramural Sports)、アウトドア教育 (Outdoor Education)、インフォーマル・レクリエーション (Informal Recreation)、レクリエーションスポーツ (Rec Sports) において様々な学習支援を展開しており、充実した支援を行っていることが示された。キャンパス・レクリエーションは学生生活の質の向上、健全なライフスタイルの構築といった、将来への準備といった大学の総合的な使命に沿っている。米国では学生の学びの成果は、単に高等教育機関における教育の質の産物というよりも、むしろ高等教育機関が提供する学習機会に、学生がいかに積極的に参加したかに規定されるものであると言われている (Astin, A.W. 1984)。その点では、米国の個人主義の文化や積極性に比べては、日本の学生は積極性に欠ける傾向にあるが、学生のさまざま

表4 2015年度インフォーマル・レクリエーション利用施設と時間帯

種目	曜日	時間	施設
バスケットボール	毎日	5:30am-10:30pm	レクセンター
バレーボール	毎日	12:00pm-4:00pm 6:00pm-10:00pm	レクセンター
バドミントン	木	6:30pm-9:30pm	第1体育室
卓球	火	6:30pm-9:30pm	スタジオ2
テニス	火~木	6:30pm-9:30pm	テニスコート
水泳 (フリースイム)	月~金	11:30am-1:10pm	プール
	月/水	7:00pm-9:00pm	
	火/木	7:30pm-9:30pm	
	土/日	12:00pm-2:00pm	

表5 2014年度秋レクリエーション・スポーツイベントスケジュール

日時	種目	施設
9/26/2014-8:15pm	3on3 バスケットボール	クルムジム
9/17/2014-7:15pm	男女混合ドッジボール	クルムジム
11/21/2014-7:15pm	2on2 男女混合バレーボール	レクセンター
1/23/2015-7:15pm	男女混合ドッジボール	クルムジム
2/20/2015-7:45pm	2on2 男女混合バレーボール	レクセンター
3/13/2015-6:30pm	男/女怪力コンテスト	重量挙げルーム
4/17/2015-8:15pm	3on3 バスケットボール	クルムジム

まな活動をきめ細かく支援する体制と学生が多面的に活動できるコミュニティの創設をすることで、学生の主体性、積極性が育っていくと考える。そのひとつの提案として安田は、生活体験の場をキャンパスに限らず地域に開いて、人と人のかかわりを通して地域との交流を行うという方向性について検討の余地があると考えている(安田2018)。

現在、スポーツ庁では、大学スポーツの抱える課題に対して、UNIVASの設立に向けて取り組んでいるものの、体育会学生を対象にしたものであり、大学が一般学生に対して入学から卒業までスポーツのできる環境を提供出来ていないのも明らかである。スポーツおよびキャンパス・レクリエーションの持つ力を、一般学生に対して応用し実践することで学生の学びに貢献できるものとする。2013年と2015年にUniversity of Arkansasで大学レクリエーションセンターの利用状況の調査では、週に1回利用した学生と週に平均2回利用した学生の方が成績は良かった。また、利用しなかった学生のGPA:3.04に対して、週に平均3回利用した学生のGPAは3.25であったとの報告もある(Arkansas NEWS 2015)。

ハワイ大学の場合は、学生の学ぶ機会の公平性を保つ意味合いで、体育施設は時間帯によって、正課体育と体育会及びキャンパス・レクリエーションが使い分けられている。体育会(Athletic Department)専用のトレーニングジムは整備されており、2004年にオープンしたレクセンターはキャンパス・レクリエーションの専用で一般学生と教職員のための施設として建てられた。日本の大学では、施設の規模と体育会の練習環境を考えると、一般学生が体育施設を自由に使用することには無理があるのかと思われるが、一つの提案として、体育会の学生がそれぞれの競技の専門性を生かしたフットネスクラスを一般学生に提供することを通じて、様々な統合的な関与が可能になり、大学への帰属意識も向上するものとする。ハワイ大学では、SRSにおいて数多くの学部生、大学院生がスタッフとして学習支援に携わっており、非常に充実した制度が設計されていた。

キャンパス・レクリエーション導入にあたっては、両国の文化の違い、運動施設の規模の違い等を考えると、小倉と安田の提案するところは、正課の体育授業と連携させるといふものであり、<sup>9)</sup><sup>11)</sup> またアウ

トドア教育などの自然環境をフィールドにした活動については、安全・安心・責任の部分の考えると、慎重に進める必要があると考える。

Lloyd I. Hisakaは次のように考える、「Ed-Venture」(EducationとAdventureを合わせた造語)「活動はすべて学びである」、学生スタッフの力をどのようにして活用して質の高い学習支援を継続的に実施できるのか、日本の大学においてもどのような形で導入できるのか検討していくことが求められる。学生の健康でバランスのとれたライフスタイル構築に関与するためには、スポーツと身体活動ができる機会を常時提供できる環境・組織を作ることが必要になるといえる。

#### 謝辞：

本研究を進めるにあたり、ハワイ大学マノア校SRSスタッフの皆様にご多大なるご協力を賜わった。とくにLloyd I. Hisaka氏には公私にわたってお世話になり心から感謝いたします。

#### 付記：

本研究は2015年度、関西大学在外研究による成果を表表するものである。

#### 引用・参考文献

- 真柄浩(1990)「大学生の健康に関する意識と行動について」; 明治大学教養論集・体育学通巻231号、157-172、  
 笹川スポーツ財団(2016)『スポーツライフに関する調査』、p.75  
 厚生労働省:平成27年、国民健康・栄養調査結果概要、第3章、1.運動習慣者の状況、p.25  
 内閣府政策統括官編(2001)『日本の青少年の生活と意識』第2回調査、p.37  
 a) Lloyd I. Hisaka 博士のインタビューによる。  
 文部科学省(2017):大学スポーツの振興に関する検討会議、「大学のスポーツの価値の向上に向けて」[www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/shingi/005\\_index/toushin/1383246.htm](http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/005_index/toushin/1383246.htm)  
 Kovac, D, C, & Beck, J, E:(1997) A comparison of student perceptions, satisfaction, and patterns of participation in recreational sports, NIRSA Journal, 22, pp.10-12, NIRSA, 1997  
 Council for the Advancement of Standards in Higher Education (CAC) 2008 The Role of recreation sports

- programs CAS Standards Contextual Statement  
 General Standards. CAS: Washington DC, USA.
- 小倉乙春（2013）学生支援としての学内レクリエーショナル・スポーツ：米国事例を中心とした報告、2013 スポーツマネジメント研究、第6巻1号、（注）
- Astin, A.W.:(1984) Student Involvement: A Developmental Theory for Higher Education, Journal of College Student personnel, Vol, 25, No.4, 1984
- 安田忠典（2018）ハワイ大学におけるキャンパス・レクリエーションについて：身体運動文化論攷、(17), 2018 University Recreation Finds Positive Link Between Facility Usage and Grades University of Arkansas NEWS. Monday, May 04, 2015

# A Study toward Student support System By the Case of University of Hawaii, Manoa Campus

Hideyo Nada

Kansai University Faculty of Health and Well-being

## **Abstract**

This study explores a possibility for a Japanese university to introduce a health education focused student service system. For this purpose, the contents of programs provided by Student Recreation Service (SRS) at the University of Hawaii Campus, are outlined and examined in their five aspects, which are Fitness Programs provided at Warrior Rec Center, Informal Recreation played at in-campus sports facility, Intramural Sports, Rec Sports, and Outdoor Education. Some on-site observations through fieldworks conducted at SRS are used to examine issues concerning the cultural differences between U.S. and Japan

Key words: Student affairs, Campus recreation, Outdoor education